

令和 6 年11月12日

東御市議会議長

中 村 眞 一 様

会 派 名 東翔の会

代表者氏名 田 中 信 寿

令和 6 年度 政務活動費収支報告書

東御市議会政務活動費の交付に関する規則第 7 条の規定により、下記のとおり、
令和 5 年度政務活動費収支報告書を提出します。

記

交付金額	280,000	円
支出金額	308,847	円
差引金額	-28,847	円

(支出の内訳)

(単位：円)

科 目	決 算 額	政務活動費充当額	説 明
調 査 研 究 費	293,435	280,000	行政視察費用
研 修 費			
広 報 費			
広 聴 費			
要望・陳情活動費			
会 議 費			
資 料 作 成 費			
資 料 購 入 費	15,412	0	市議会会議録代
人 件 費			
事 務 所 費			
計	308,847	280,000	

(実施事業)

事 業 名	事 業 内 容
会議録の購入 行政視察の実施	会派内の情報共有と議員各々の一般質問などの参考とするため会議録を購入した。 市政への政策提言や議員活動、議会活動の参考とするため県外の先進事例の行政視察を行った。

政務活動記録簿

会派名	東翔の会
事業名	議会会派行政視察【兵庫県神戸市・丹波篠山市】
実施日	令和6年5月8日（木）～10日（金）
参加議員	田中信寿、瀬田智之、大塚博文、大谷真宙

1 東御市における課題と研修・調査の目的

- ①防災関係（淡路大震災の経験と教訓を後世に伝え、これからの備えを学ぶ防災学習施設を見学）、災害の記憶をどう継承するか
 ②当市のコワーキングスペースの利用実績の向上を図るため、日本初のコワーキングスペースを訪問し「あり方」について学ぶ
 ③現在最大の課題である学校給食センター建設の参考とするため、日本一の学校給食となった学校給食センターを見学し給食運営を学ぶ

2 経 費

使途項目	経費の内容と内訳		金額（円）
（該当項目に○）	交通費・宿泊費等	草軽観光支払・高速代・燃料代	261,458
調査研究費	視察先謝礼	視察先土産代	3,477
研 修 費			
広 報 費	入館料	神戸市・人と防災未来センター	2,100
広 聴 費	日当	2,200円×3日×4人	26,400
要請・陳情活動費			
会 議 費			
資料作成費			
資料購入費			
人 件 費			
事 務 所 費			
合 計			293,435

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No.1)

実施日時	令和6年5月8日(木) 午後2時～午後3時00分
視察場所及び 部局等	兵庫県・神戸市 人と防災未来センター
視察事項	防災関係(淡路大震災の経験と教訓を後世に伝え、これからの備えを学ぶ防災学習施設を見学)
報告 内容	(1) 視察先概要 「人と防災未来センター」は国の支援を得て平成14年4月に兵庫県が設置し、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構が運営を行っている施設。阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することを目的としている。 (2) 視察事項について 阪神・淡路大震災の状況と復興からの歴史、及び総合的な防災学習 (3) 所感・市政に活かせること 阪神・淡路大震災の状況と災害を復興から歴史が体感として伝わってくる来る施設で、大震災の凄さ、避難生活の困難さなどを感じることが出来た。大震災ということではないが、東御市も令和元年台風19号災害を体験している。近年では大きな災害と記憶されるが、数年たち当時の記憶が次第に薄れていく。災害対応の記録を検証し継承することで、これからの防災施策に活かす事ができる。台風19号災害の記録・記憶を残し、市民に防災を啓蒙するよう取り組んでいくべきである。

(視察先の写真等がある場合は添付)

「神戸市・人と防災未来センター」館内写真

阪神・淡路大震災関連の展示 避難所の様子の模型展示



被災した街の実物大のジオラマ展示



3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No. 2)

実施日時	令和6年5月8日(木) 午後3時30分～午後4時30分
視察場所及び 部局等	兵庫県神戸市・コワーキングスペース「カフーツ」
視察事項	まちづくりの拠点として、コワーキングスペースのあり方について
報 告 内 容	(1) 視察先概要
	証紙別紙
	(2) 視察事項について
	詳細別紙
	(3) 所感・市政に活かせること
	詳細別紙

(視察先の写真等がある場合は添付)

東翔の会 コワーキングスペース「カフーツ」視察レポート

令和6年11月8日

作成 大谷 真宙

視察先：コワーキングスペース「カフーツ」

兵庫県神戸市中央区多門通り2丁目1-17 ジョウエービル1F

視察日：2024年5月8日

目 的：まちづくりの拠点として、コワーキングスペースのあり方について学ぶ

目 標：日本で初めてのコワーキングスペースである「カフーツ」。

設立者である伊藤富雄氏よりコワーキングスペースのあり方の知見を伺う。

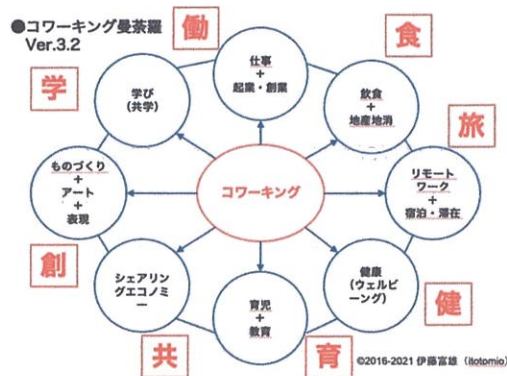
動 機：東御市のまちづくりの拠点としてコワーキングスペースがより機能させるため。

また公民館とコワーキングスペースの類似性について意見交換を行うため。

概 要：カフーツは「10畳ほどの事務所のワンフロアに仕切りもなく、オフィス机が背中合わせにいくつか並べている至って簡素なコワーキングスペースだった。

当会派長の田中信寿議員が本市の「コワーキングスペースえべや」の開設に参画していた経験から、伊藤富雄氏と活発な意見交換がされました。

伊藤富雄氏からは、下のコワーキング曼荼羅を見せていただきながら、「コワーキングスペースが『Co-Working Space』と英記される通り、『共に働く』というところに多く重きが置かれており、『業種や職種が違うさまざまな属性の人たちが接点を持つことで、予想もしなかったコラボが生まれ、新しい価値を生む、そのためのプラットフォームとしてコワーキングスペースがある』とお話をいただきました。



学習点：①施設設備や内装の豪華さ・華麗さではなく、人を繋げていく能力に長けたコワーキングマネージャーに重きを置くこと。

（米国では、コワーキングマネージャーへの待遇を厚くしているとのこと。）

②中国地方では、民間レベルで公民館にコワーキングスペース機能を設ける挑戦が行われているとのこと。

まとめ：③コワーキングスペースえべやの活動を監察する際は利用数・率だけで見るのではなく、どれだけ人と人をつなげる取り組みを実施したかという視点を持つ必要があります。

④キーマンとなるコワーキングマネージャーの待遇を確認する必要があります。

⑤拙夫解釈になりますが、公民館活動もコワーキングに通じるものがあり、地域資源（人・物・コト・カネ）を公民館（分）館長が結びつけ活用していく能力を養成する取り組みを検討するのも一考です。



3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No.3)

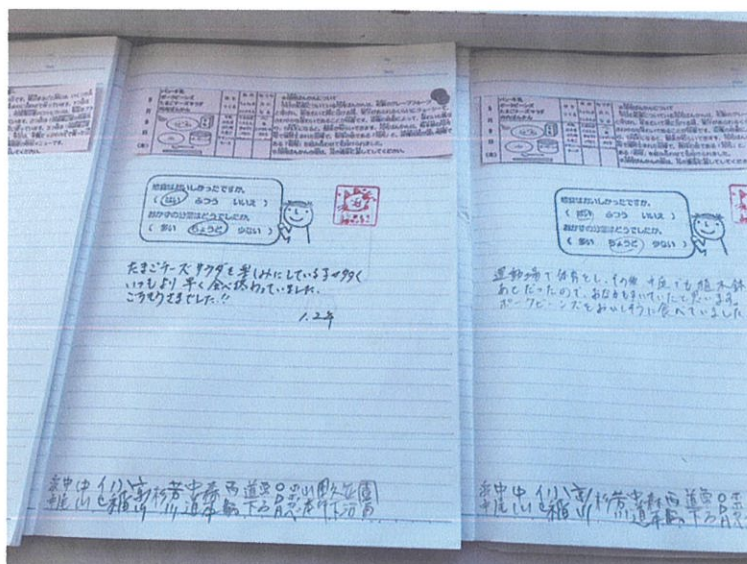
実施日時	令和6年5月9日(金)午後2時00分～午後3時30分
視察場所及び部局等	兵庫県・丹波篠山市 丹波篠山市立西部学校給食センター
視察事項	給食センターにおける学校給食に対する取組
報告内容	(1) 視察先概要 丹波篠山市は、兵庫県の中東部に位置し、古来京都への交通の要として栄えてきた歴史があり、町並みや祭りなどに京文化の影響を色濃く残している。大阪や阪神間へのアクセスは宝塚・伊丹へは片道40～50分、大阪へは70分程度。人口は約43000人。給食センターは2か所あり視察先の西部給食センターは、平成19年竣工(フルドライシステム)し一日約2100食を提供。40名(内栄養教諭1名)の人員体制。学校給食のおいしさを競う「学校給食甲子園(認定NPO法人21世紀構想研究会主催)」で第14回(令和元年)優勝、第15回(令和2年)優秀賞。 (2) 視察事項について(先方説明員・西部給食センター所長 仁木秀樹 氏) ①給食センターにおいて学校給食をどの様に提供しているか。 ②自校給食に比べ給食センターでの給食提供のメリットとデメリットについての参考を求める (3) 所感・市政に活かせること 給食センター施設としては標準的であり、これから当市で建設に取り組む給食センターの参考とはなりえない。しかしセンター給食であっても、日本一の美味しい給食と認知された実績が示すように給食の地産地消への取組(味噌は給食センターで手作りなど)、郷土食やイベント対応の献立の多さ、個別対応するアレルギー対応給食の提供など児童・生徒に極め細やかに寄り添い対応した学校給食となっている。特に栄養教諭さんの熱意が高く、またそれを市の教育行政もバックアップしている。自校に比べ食育という観点でセンターでは距離感があるとされるが、夏休みに親子クッキング教室の開催やセンター見学を頻繁に行うなどして取り組んでいる。自校式にセンター方式は敵わないとする意見があるが、センター方式でも自校式に伍する給食が提供できると本視察により考察できる。なお、日本一美味しい給食を地域にも知ってもらい還元するため、レシピ本を出版している。

(視察先の写真等がある場合は添付)

丹波篠山市・西部学校給食センター 視察写真



センター見学児童の寄書



給食センター職員と児童との意見交換ノート



レシピ本の発刊（神戸新聞より）

政務活動記録簿

会派名	東翔の会
事業名	東御市議会定例会等会議録購入
実施日	
参加議員	田中信寿、瀬田智之、大塚博文、大谷真宙

1 東御市における課題と研修・調査の目的

本会議における議案の採決に至るまでの経過や審議された内容等について、今後の議会活動や市政の調査研究に活用するとともに、会派内議員の正確な情報共有を図るため、東御市議会定例会等の会議録を購入した。

2 経 費

使途項目	経費の内容と内訳		金 額（円）
(該当項目に○)	市議会会議録購入代	3月定例会 会議録	7,692
	〃	5月臨時会 会議録	1,068
調査研究費	〃	9月定例会 会議録	6,652
研 修 費			
広 報 費			
広 聴 費			
要請・陳情活動費			
会 議 費			
資料作成費			
資料購入費			
人 件 費			
事 務 所 費			
合 計			15,412

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと